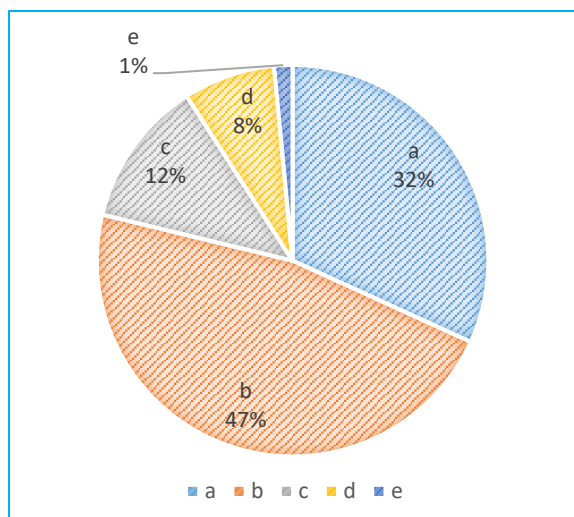


第18回 大学教育問題全学講演会
「企業における生成AIとの付き合い方と大学に期待すること」
アンケート集計結果 (2024.4.11)

参加者 154 名

1. 講演はいかがでしたか。



- a. 大変良かった
- b. 良かった
- c. ふつう
- d. あまり良くなかった
- e. 良くなかった

a	b	c	d	e	計
21	31	8	5	1	66

2. よろしければ、1.の理由を教えてください。

●「a. 大変良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 生成AIについて、分かりやすく整理してお伝え頂けた点。
- ◇ 話し方が上手でした！
- ◇ 生成AIの利用実態がどの程度、広がっているのか、また、その能力についてもおよその状況が分かった。
- ◇ 生成AIのメリット、そしてデメリットなどが具体例も交え分かりやすく紹介されていたから。
- ◇ 今のAIのすごさと恐ろしさを、とても良く、そして面白く実感できました。
- ◇ 使ったことのないAIについて知れたから。別途AI用のメールアドレスを作成するといったことを学んだから。話の内容がおもしろく、あっという間に時間が終わったから。
- ◇ 基本的なことと最新の情報の両方を理解することができた。
- ◇ 生成AIの社会における浸透の最新情報に触れることができた。
また、大学教育において留意すべき事項も認識することができた。
- ◇ 生成AIについて思っても見ない視点からの意見を聞くことができた。
- ◇ 興味のある内容であったし、講師の方の説明もわかりやすく、総じて満足であるため
- ◇ 生成AIの現状が良く分かった。
- ◇ テンポよく、AIの概要から利用上の注意までお話いただき、参考になりました。
- ◇ AI時代のトレンドが読めました。
- ◇ AIのアプリなど、今日までの最新の情報を得られた。先行研究付きのアプリも出ていることを知らなかった。自身の教育や研究にも活かせることができそう。
- ◇ AIの利用についてメリットとデメリットを考える機会になったので
- ◇ 講演者の実体験に根差していて実にリアルだった。
- ◇ AIに関する最新の情報を学ぶことができた。
- ◇ 生成AIに関しては仕事や生活の場、そして教育の場で不可欠な知識・スキルとなっていくことから、現状と今後についてわかりやすく知ることができた。
- ◇ 知らないことや最新の情報を知ることができた。

●「b. 良かった」と答えた人のコメント

- ◇ 知らないことがあったので勉強になった。
- ◇ タイムリーな話題でリアル感があった。
- ◇ これからどの大学でも対応すべき問題だから。
- ◇ 生成AIの最新情報について具体的に知ることが出来た。
- ◇ 話の内容が通り一遍のことではなく、机上の空論のような形ではなかったため。
- ◇ 少しでも状況を理解することにつながった。
- ◇ 生成AIのビジネスなどでの活用についての知見は得られたが、教育上の対応（：生成AIの不正使用対策など）について、もう少し詳しく知りたかった。
- ◇ 生成AIについて、概要を知ることができた。ただ、基本的な知識の伝達に留まり、より深い実演等がなかったので最高評価はできない。
- ◇ 生成AIの怖さについて改めて知ることができた。ただ、生成AIで作成されたレポートにどのように対処すればいいのかという、教員にとって一番知りたい部分の説明が少々足りなかった。
- ◇ 講演のテーマが絞りがきいていない印象があった。全般的な生成AIに関する紹介・啓発という意味では良い講演だったと思うが、就活での学生の生成AI利用の実態や企業が求めることであればもっとその方面のお話を聞いたかったし、授業と生成AIであれば他大学の事例などをもう少し具体的に教えていただきたかったと思う。
- ◇ とても分かりやすかった。もう少し授業や大学での活用事例があるとよかった。大学での生成AIの利用状況については現在発展過程で話ずらいかもしれませんが、大学での生成AIの適用におけるリスク、利便性について聞いたかった。
- ◇ AIの現状を理解できた。
- ◇ これからどの大学にとっても適切な対応が必要なテーマだったから
- ◇ 生成AIの全体像の把握に役立った。
- ◇ 講演を通してAIの活用方法と限界とが多少具体的にになり、Chat GPTとPerplexityとの相違を可視的かつ実践的に解き明かした。
- ◇ 時宜に適ったよいテーマであるが、（個人的には）思っていたほど新たな発見はなかった。
- ◇ 今後業務を行う上でのヒントを得ることができた。
- ◇ 生成AIへの意識が以前より高まった。
- ◇ 大変わかりやすかった。
- ◇ perplexityの情報が得られた。
- ◇ 生成AIについて詳しく知ることができた。
- ◇ 生成AIの動向の基礎的なことと、使用する際の注意事項を教えてもらえたこと
- ◇ 生成AIの技術が予想以上に高まっていることを知ることができた。
- ◇ 惹きつける話し方でわかりやすかった。新たに学ぶ内容ではなかったが、AIについては日々更新していることなので今後も注目していきたいと思う。
- ◇ 内容が大変参考になりました。
- ◇ 生成AIが実際に企業で活用されている事例をわかりやすく教えていただけたこと、利便性とリスクについて理解が深まりました。
- ◇ AIの実物を見たことがなかったので、参考になった。
- ◇ AIの活用が進歩していたことに驚きを感じるとともに、うまく活用できれば業務に役立つとの印象を受けた。

●「c. ふつう」と答えた人のコメント

- ◇ 現在、ChatGPTの授業導入をするためにいくつか書籍や雑誌を読んでいるが、残念ながら講演内容はそれら書籍に書かれているものを超えなかったため、もう少し大学に寄せた内容でも良かったのではと思う。
- ◇ 既に知っている内容であったため、AIを使った授業の進め方をもっと詳しく知りたかった。
- ◇ すでに知っていることが多かった。
- ◇ 基本的な内容だったので、実践としてどうなっているか、大学でどう使われているかの事例を中心に話を聞いたかったです。
- ◇ SEの方の「生成AI体験記」といった内容で、お話も上手で、普通の学生や生成AIに詳しくない人には興味深い内容だったと思います。

- ◇ 研究の性質上、この方面にはなじみがあるが、何か参考になればといくらか期待したものの、正直言うとあまり有益な情報は得られなかった。学内で関連した研究をしている複数の教員による議論などのほうが、より意義深い内容になったかもしれないと思う。
- ◇ すでにある程度、知っている内容だった。教育現場におけるAIの使用法や、どこに気を付けていけば良いのか等、もう少し踏み込んだ内容が知りたかった。

●「d. あまり良くなかった」と答えた人のコメント

- ◇ 既知情報ばかりであったから。
- ◇ 既にChatGPTを使用しているので、もっとその使用に対する教育現場での倫理的な話や知られていない実践的な問題などを知りたかったから。
- ◇ 一般的な話で得るところが少なかった。
- ◇ 提供された情報は非常に一般的であり、そのトピックに興味を持っている人なら誰でも容易に入手可能でした。さらに、大学の状況に直接関連する情報がほとんどありませんでした。

●「e. 良くなかった」と答えた人のコメント

- ◇ 「生成 AI を使っていますよ」というユーザー目線の発表で、正直に言って、得るものが無かった。本日伺った内容なら、すでに知っている人も多かったと思う。「生成 AI」という言葉を最近耳にするけれど、見たこともないし、何が何やらさっぱり分からない」という人向けにはよい講座だったかもしれないが、FD としては非常に物足りなかった。

3. 本講演を聞いて、今後の教育活動にどのように活かしていけばよろしいと思われますか。

- ◇ 考え中です。
- ◇ 生成AIとの共存方法の模索
- ◇ 利用するのは簡単で、学生が学習過程で使用することを止めることはできない。自分で思考せずに結果だけ出力され文字化されるという可能性が高く、どのように授業・ゼミで活用すればよいか、熟考を要します。
- ◇ 特に、学生の課題レポート等で、学生による生成AIの使用に関わる問題が生じることは今後十分あり得るので、場合によっては口頭試験を別に課すなど考えていく必要があると感じた。
- ◇ 学生たちとよく話し合っ活活用していきたいと思います。
- ◇ 単に情報収集、検索に活用するだけでなく、得た情報を元に更に新たな問いを学生に考えさせる方向で活用できればと考える。
- ◇ 課題作成において学生が生成AIを利用することを禁じるよりも、その使用を明記させたり、そのままコピーして使うことは禁じたり、出典を調べさせたりすることを周知させていこうと思った。
- ◇ すでにAIリテラシーに近いことはゼミで実施している。が、AIの種類によって特徴が異なることを学んだので、もう少し柔軟な方法を考えたい。
- ◇ 課題などの工夫が必要である。とりわけ、自宅でもできる課題の場合、学生の身近に生成Aiがあることを意識しなければならない。
- ◇ 情報リテラシーについて、宿題やレポート課題を課す前後に授業で取り扱いたい。
- ◇ そもそも知とは何かが問われていることを常に想起しながら学生に向かうべきこと。
- ◇ 生成AIの不正使用（：生成結果の全面コピー）への対策（：共用検知ソフトの導入）を検討すべき。
- ◇ どうしても学生がAIを不正に使用することへの懸念ばかりが議論されがちではあるが、生成AIを使用した試験問題の作成など、教員や現場が有効活用することを考える必要がある。
- ◇ 学生への注意喚起や、今後AIと共存するためにはどうしたらいいのか具体的な方法を考えていきたい。
- ◇ 生成AIは、学生も普通に使いこなしており、今年度の実習等でも用いる予定でいる。AIの利点と問題点を改めて伝えていきたい。
- ◇ 本講演自体は、教育に活かせる部分は少なかったように思う。今後、学部単位、あるいは大学全体としての対応を考えていく必要があるだろう。
- ◇ 他大学では生成AIを活用した授業への取り組みが行われているようなので、単にこれを拒絶するだけでなく、AIが作成した解答をもとにさらに議論するというのができればいいと思っている。
- ◇ レポート課題の出し方に参考になった。
- ◇ 特になし

- ◇ 現状と特に変わらないと思います。すでに生成AIについて授業では話していますし、レポートで使われないための対策も自分なりにとっています。
- ◇ 生成AIから学生を引き離すことはできないので、むしろ生成AIと、安全かつ効果的にいかに共生していくかを学生と共に考えていく必要があるように思う。
- ◇ 教職員の方が先に生成AIを使いこなせる必要を感じた。本学の「データサイエンス入門」の科目で用いているベネッセのオンライン教材がなかなか良くできているので、教職員もこれで勉強できるようにしてはどうかと思う。今年はベネッセから生成AIに関する最新のコンテンツ（とはいえ、日進月歩の世界なので日々新しいニュースが入ってきているが）も提供してもらっているので、この分野に詳しくない教職員には役立つのではないかと思う。
- ◇ 学生との共同で使い方を模索していきたい。
- ◇ 生成AIについては情報を集めてゆこうとは思っている。
- ◇ 活かしたいと思います。ありがとうございました。
- ◇ 課題の出し方などを工夫していきたい。
- ◇ SEの方の「生成AI体験記」といった内容であったので、正直、9割以上は知っている話ばかりでした。このご講演が役に立つ人も多いのかもしれませんが、ある程度は日々のニュースに関心を持って勉強したり情報収集している人にとっては、新たに得られるものがほとんどないかもしれません。このご講演を今後の教育活動にどのように生かしていくのかと問われると、お答えするのが難しいですが、プレゼンの仕方などは少しは参考になるかもしれません。
- ◇ 単に情報収集、検索のツールとして問題解決に活用するのではなく、その情報を元にさらに自ら問いを導くことで新たな問題の発見につながる方向での活用を目指したい。
- ◇ 生成AIを使った学生のレポート対策が必要。
- ◇ 生成AIを使うためのリテラシーについて説明する機会を一部の授業で採り入れているが、講演で聞いた内容についても、それに反映しようと思う。
- ◇ 学生の生成AI利用を考える一助にできると思った。利用があった場合に、使い方を報告させるなどで活かせると思った。
- ◇ AIの利用法など、学生たちとともに考え、実践する活動を行いたい。
- ◇ 当面は、「経済英語」科目の授業で翻訳課題の解説に役立つと思います。
- ◇ まずは、学部ではなく、大学院の授業で扱うのがよいと考えている。
- ◇ 教育時に生成AIを使うメリットとデメリットがわかったので、それをふまえて、例えば対面の試験では「～について説明しなさい」という形で評価し、それ以外のところでは生成AIも利用できる授業も考えてみようと思う。
- ◇ AIの利用の仕方について学生に注意喚起することに活かせると思う
- ◇ あまり影響を与えないようだ。そのテクノロジーを試している人は今後も自分自身で試し続けるだろうし、そうでない人はそうしないだろう。
- ◇ 不正に生成AIが関わっているかどうかという問題もあるでしょうが、より創造的なことに活用したい。
- ◇ 生成AIとの上手な付き合い方を考えていきたい。
- ◇ 試験問題の作成などに生かせるかもしれない。
- ◇ レポート課題を出す際には、妙な手触りの文章に気をつけなければならないと思った。すでに経験があるので、今後も用心しなければならないと思う。
- ◇ これまでも本学学生には翻訳AI(DeepL)の使用を推奨してきたが、他のAIについても自分が使用してから学生に推奨したい
- ◇ 授業の組み立て方、課題・評価方法の見直しを来年度検討したい。
- ◇ 教育や就職活動にどのようにAIが使われているのか学ぶことができた。今後、学生の相談（就職など）があれば、講演で学んだことを踏まえてアドバイスしていきたい。
- ◇ 利便性とリスクを熟知した上での活用。特にレポートや卒論作成において。
- ◇ まだ具体的にはないが、今後常に頭の片隅に置いて授業を考えることになるだろう。
- ◇ 似ているような課題で良い。
- ◇ 「使うな」では無く間違のないように使えるよう正確な知識を与えた上で利用させる
- ◇ 今の時点では、AIを交えない、普段通りの教育活動を続ける予定である。
- ◇ 企業社会と大学は異なるので、社会では生成AIの活用スキルが求められてくるでしょうが、大学教育上、学習者は生成AIにどのように接するべきなのか、今後は生成AIの利便性とリスクについて教育面での啓蒙を促していきたいと思います。
- ◇ レポートを課する際の作問に工夫が必要であることを理解した。

4. 今後どのようなテーマを希望されますか。

- ◇ 特にありません
- ◇ 生成AIを活用している大学での具体的な事例。成績評価にどう対処するのか。
- ◇ 最近ICTの種類なども多様化しているので、それらの活用法や実践例について詳しく知ることができる機会があると嬉しい。
- ◇ もっと生成AIの実践的な話題を聞きたい。
- ◇ 18歳人口減少に向けた大学のあり方
- ◇ 授業（特に文学系）におけるSDGsの具体的な取り組み例について
- ◇ AIなどが進む一方で、古典的な教育（たとえば、自身で1から文章を書くことの練習）はどの程度必要なのか、他大学等の事例も含めて実態を知りたいと思っている。
- ◇ 特に何かある。
- ◇ 配慮学生また、配慮は必要ない（申請はない）が境界にある学生の指導について
- ◇ 量子論的世界観へのコモンセンス
- ◇ スマホの過剰使用による認知機能低下問題。
- ◇ Well-being に関すること
- ◇ 25カリキュラムの施行を前に、これまでのカリキュラムの総括。
- ◇ 本テーマの続編があってもいい。
- ◇ 大学生の学力低下がどの程度深刻なのか、少子化に対する教員の心構えなど
- ◇ どんなテーマでも専門家に来て欲しいです。話の上手い人ではなく、専門的にその分野を研究していたり取り組んだりしている人を希望します…。
- ◇ アフターコロナ・withコロナ対策（特にオンライン授業をどのように活かすかについて本学の対応の遅れを感じている）、コンプライアンス教育、スポーツ政策、等
- ◇ 科学全盛時代における文系総合大学の役割。
- ◇ アフターコロナの大学の方向性やあり方について、オンライン授業と対面授業の併用、大学間連携などについて、
- ◇ アントレプレナーシップ教育
- ◇ アクティブ・ラーニング。産官学協働。
- ◇ 生成AIの研究活動での利用の実態（今回は教育活動が主だったので）や配慮学生についての対応
- ◇ 繰り返しにはなりますが、ハラスメント防止、障害者（学習障害を含む）への合理的配慮などの講演は必要かと思います。加えて、先進的な教育事例、方法論の紹介があれば参考になるかと。
- ◇ 「文・理融合型」課程の導入の現状と課題 ～愛知大学の今後を占う～
- ◇ 少子化にかかわる今後の教育行政のゆくえ
- ◇ 効果的なリベラルアーツ教育
- ◇ 学外における、正課授業あるいはクラブ活動など学生の自主的な活動と、安全面を中心とする大学の（組織上の）関与について、他大学の事例を聞くことができればと思う。
- ◇ 学生や同僚からハラスメント相談を受けたときの対応
- ◇ 企業が実際にAIをどのように使用しているか、従業員にAIを使用するためのトレーニングをどのように行っているか
- ◇ 私立大学の生き残り戦略に関する知見を拝聴したい（特に、推薦入試と学力入試の比率についての実証的研究）。
- ◇ 特になし。
- ◇ 私立学校法改正について
- ◇ 特になし。
- ◇ 生成AIの教育への適用例
- ◇ 演習など少数授業における心身疾患などを有する学生に対する対処・配慮法
- ◇ AIについて。特に学生がChatGPTなどのAIソフトを使用するとどういったよりわかるか、どう対応すべきかを学びたい。またAIに役立つ研究方法についてと言う専門的なアドバイスを聞きたい。
- ◇ 2023年私立学校法改正などはいかがでしょうか。
- ◇ 学生に自分の「夢」や人生への「希望」をもたせることができるような、教職員の関わりについて。